



# 白萩

学校だより「しらはぎ」

令和5年 3月号

あきる野市立増戸中学校

編集：副校長 宮下 茂樹

## 開花を待つ

今年のソメイヨシノの開花は、昨年より早いという予想です。夏に花芽ができて、すぐには成長しません。秋には休眠状態となり、冬に気温が下がり寒さが厳しくなると目を覚まします。「休眠打破」という状態です。今年は寒波の影響で花芽の成長が促されているそうです。校庭の桜も開花の準備をしています。

学校の活動は総仕上げの時期です。この一年も新型コロナウイルスの感染対策を取りながら過ごしました。宿泊を伴う学校行事や校外学習の再開、授業の進め方の改善など工夫を凝らしました。コロナ対策を前提とした諸活動でしたが、そろそろ以前の活動に戻す局面になってきました。マスクの着用も個人の判断に委ねるという方向が示されました。進級・進学を迎える生徒たちにとって大切な時期です。極端な運用にならないように配慮して、年度末を過ごすよう心掛けます。

第三学年の生徒は、各自の進路の方向が見えてきました。三年間を振り返り卒業に向けての準備に取り組んでいます。

講話を依頼された8日（水）、道徳教材『「稲むらの火」余話』を題材に、地域との関わりとこれからの生き方や学び方の意義について共に考えました。安政元年（1854年）12月24日に発生した安政の南海地震は房総から九州までの広い範囲で津波が観測されました。物語「稲むらの火」は紀州和歌山藩広村の浜口五兵衛の活躍が描かれています。モデルは実在の人物、浜口儀兵衛氏です。教材にはその後の防潮堤の建設や植林のことが書かれています。卒業後も自分の育った地域、将来住むかもしれない地域のことを想像して、地域との関係のもち方や自分の生き方について考える契機になってほしいという気持ちを込めました。東日本大震災から12年が経過することもあり、中学生と話ができる良い機会となりました。

10日（金）弁天山クリーン作戦。一・二年生の時にはできなかった校外学習として、地域を再発見するという班行動を企画しました。ミツバツツジの植栽の様子や城山から学区を共に眺めました。降雨が心配でしたが、都立小峰公園まで無事到着しました。

17日（金）は卒業証書授与式です。在校生参加の全校での式は三年ぶりとなります。来賓の皆様には、一部参加制限をさせていただきます。ご理解いただきますようお願いいたします。卒業生の晴れやかな姿をご披露できるよう準備を進めております。合唱コンクールで実現できなかった上級生の歌声を下級生に届けてほしいと思いますし、在校生も卒業生の思いを受け止めてほしいです。校庭の桜も目覚め、お祝いに間に合うかもしれません。

この三年間がコロナ禍という休眠のような状態だったとしたら、休眠を打破する三月にしたいと思います。

校長 木下 美彦



増戸の地域を眺めて



講話にて



班行動の開始

保護者・地域の皆様、一年間、本校へのご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございました。次年度に向けて準備してまいります。